



CHILD HEALTH NURSING

小児看護専門看護師

CERTIFIED NURSE SPECIALIST



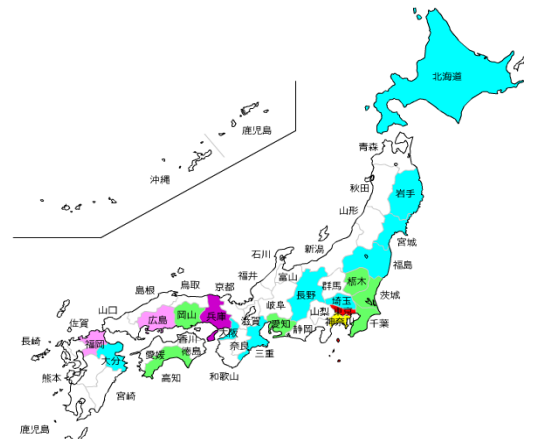
少子高齢化社会を迎え、子ども一人一人をいかに大切に健やかに育てていくかが重要な課題です。小児看護専門看護師は、あらゆる健康レベルにある子どもおよびその家族に対して、最善の利益が守られるように、子どもおよび家族の力を引き出しながら、成長・発達を見据えた看護を提供します。健康障害をもつ“子ども”だけでなく、そのきょうだいである“子ども”、また親や家族が病気という境遇にある“子ども”の支援も考えていきます。

地域医療支援、高度先端医療、医療者の教育など医療機関が担う役割、また組織におけるニーズに応じて、小児看護専門看護師は子どもと家族を支えるチームの一員として、管理者やスタッフと共に取り組んでいきます。

1. 人数と活動地域

2011年7月現在、全国で56名の小児看護専門看護師が活動しております。

詳しくは、日本専門看護師協議会 HP (<http://www.jpncns.jp>) を参照してください。



赤色 12名、黄色 9名、紫 4名、緑 3名、桃色 2名、水色 1名

2. 所属機関・職位・配置

【所属機関】小児専門病院、地域中核病院、大学病院、専門医療機関などです。また、研鑽のために博士課程に進学している CNS もいます。

【職位】師長（部下をもたない師長も含む）、副師長もいますが、スタッフである CNS が多い傾向にあります。

【配置】外来や病棟、看護部、リソース部門などに配置され、その活動形態は多岐に渡ります。

【所属する委員会やチーム】

- ・ 専門看護師・認定看護師会、医療安全事故防止対策委員会、教育委員会、看護部研究倫理審査委員会、サービス向上委員会、研修委員会、事例検討委員会、基準手順委員会、記録委員会、など
- ・ ケアチーム〔小児摂食・嚥下、虐待対策、グリーフケア、呼吸理学療法、在宅療養支援、接遇など〕

3. 活動内容

【看護実践】

- ・ 直接的／間接的関わりによる子どもおよび家族の問題解決

（子どもや家族への説明、痛み緩和、退院支援、グリーフケア、医療連携、臓器移植に関わる支援など）

【看護師等ケア提供者への教育・サポート】

- ・看護ケアの相談，看護師のメンタルサポート，学習会
- ・各委員会活動の相談対応，認定看護師のサポート，看護研究支援，院内教育（企画運営，講義：倫理，研究，理論，家族ケア，小児専門コース，小児科研修医，その他ニーズに応じた学習会や事例検討会）
- ・看護系専門学校・大学・大学院や日本看護協会，専門看護師・認定看護師教育課程での講義・実習支援，学会等での講演・シンポジスト，地域における小児ケア研修会の企画・運営，看護系雑誌・教科書等の執筆など

【ケアシステムの構築】

- ・院内外のチーム医療の促進・支援体制の構築（在宅療養，緩和ケア，子育て支援など）

【研究活動】

- ・文部科学省や厚生労働省科研をはじめとする研究への参加
（例：高度実践看護師クリニックシステム，緩和医療，家族支援，プレパレーションなど）

【社会活動】

- ・学会評議員，学会誌編集委員，専任査読委員
- ・日本看護協会認定看護師認定委員会，認定実行委員会
- ・特別支援学校評議員
- ・市民向けパンフレット作成
- ・地域ボランティア（例：福祉協議会主催相談会）
- ・県委託事業（例：NICU入院在宅移行支援コーディネーター事業）など



4. 得ている評価：

子ども・家族	「相談できて安心した」「誰に相談して良いか分からない時に頼りになる」 「病気や治療の目的の説明がわかりやすい」「辛くてもやっと思いこうと思えた」 「主治医が代わっても CNS がいてくれてよかった」「子どものことをスタッフと一緒に考えることができた」 「発達を踏まえた関わりで子どもを大事に扱われていると感じる」「先生と話ができた」
看護師	「困った時相談できる」「問題がどこにあるのかわかる」「納得のいく説明をしてくれる」 「広い視野での知識の提供や助言，幅広い内容の相談を行える身近な存在はありがたい」 「多様なニーズをもつケースの調整を依頼できる」「病棟/外来/地域間がつながり、患者/家族理解も深まる」 「看護師で判断できることが増えた」「看護が楽しくなった」 「子どもと家族が主体であることを考えさせられる」「子どもへの説明の必要性を意識できるようになった」
管理者	「教育内容が充実した」「研究や事例検討会の質が向上した」 「方向性を見失ったときに戻れる存在」
他職種	「難しい説明の際、同席を求めている」「話がしやすく、家族が理解しやすいように思う」 「医師だけではささえきれない家族や子どものケアができるようになった」 「部署間の連携、在宅移行ケアがスムーズになる」「福祉職とは違う視点で意見をくれ、支援の幅が広がる」
地域	「看護（生活支援）に関する問い合わせができるようになった」 「連携しやすくなった」「（事業では）求めている以上の成果が得られている」

小児看護専門看護師の雇用や活動に関する情報提供や相談を希望される方は、日本専門看護師協議会事務局 (info@jpncons.jp) までご連絡ください。